

完全なる結婚・創造的な性

この通信も8号になりました。8という数は無限、正義を表わします。今回はこの無限ともかかわるテーマです。とても未熟な通信のため、なかなか理解しにくいと思いますが、それでも、ノーシスが、人間の内側からの進化をめざし、そのためにすべてを伝えようとしていることを、いくらかでも感じていただけているのではないかと思います。その進化を実現していくための大きな柱があります。その1つが性の柱です。今まで4号などでも小けてきました。今回は大変重要なテーマ、性についてです。

1. 性とはなにか

我々は魂、霊、肉体を持っています。魂は完全に純粋な神聖なものです。これ以上にまさるものはなにもない。至高、神の一部です。ですから、魂に国籍や性別はありません。魂は魂以外のなにもものでもなく、言葉で表現することは不可能です。魂は肉体の中に宿っています。肉体には性別があります。そして、肉体が男である場合、霊は女性型で、肉体が女であれば霊は男性型をしています。人間はすべて、1人の人体の中に男性ホルモンと女性ホルモンの両方を持っています。ただ性別によって、2つのホルモンの量が違い、体もそのように成長していきます。まず初めに、人体の性について、ごく簡単に小けてみます。

人体と性

我々の体は、膨大な数の細胞と、それらの細胞を浸している体液（血液、リンパ液、脳脊髄液など）とによってできています。もとは、たった1個の卵細胞から始まり、それが分かれ増えていき、この全身を形作るだけの細胞ができあがりました。そして、同じ種類の細胞が集合して、組織ができました。皮膚や粘膜、骨、筋肉、血液、リンパ、神経などです。我々の生殖細胞（卵子、精子）は、これらのどの組織にも属しません。卵子や精子を作るものは、男性の睾丸であり、女性の卵巣です。これらは性腺、生殖腺と呼ばれ、生殖を司っている臓器です。人間は生まれる時に、一定の生殖細胞を持っていて、これには個人差があります。女性は、左右の卵巣に約50万個の卵子の素、原始卵胞を持ち、成熟させます。一生の間に排卵されるのは400~450個で、残りは死滅します。男性は睾丸で精子

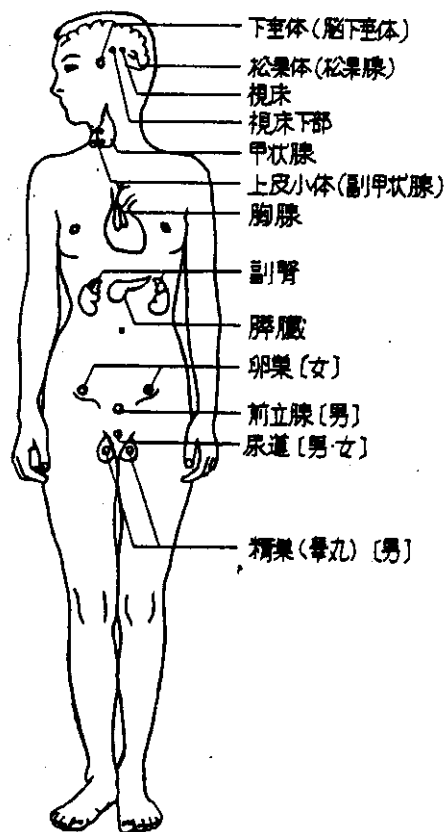
が作られ、それに前立腺などの分泌液が加わって精液となります。人間1人の生命を生み出すのに必要な精子は1個だけですが、1度の射精では2~6億の精子が排出されています。このほかに、睾丸は男性ホルモンを、卵巣は女性ホルモンを分泌します。この2つのホルモンは非常に似た構造をしていて、副腎皮質ホルモンともよく似ています。そして、脳下垂体からは性腺刺激ホルモンが出され、精子、卵子の成熟や、性ホルモンの分泌を促進しています。これらの働きによって、男性は男性らしく、女性は女性らしく成長します。

性ホルモンと水素

ホルモン、hormoneとは、呼び覚ますもの、刺激するものという意味です。我々の肉体は中枢神経系と、体中を巡っている血液中のホルモンによってバランスが保たれています。

すべてのホルモンは、内分泌腺から分泌されます。つまり、直接、血液中に分泌され、血液によって全身に運ばれて、そのホルモンの働くべき器官、臓器に至ってその機能を果たします。我々の肉体は物質ですが、物質を形作るものは元素であり、元素は原子でできています。原子、*átomós* は a (否定) と、*tomos* (分解する) というように、それ以上分解できないもので、原子核(陽子と中性子)と電子からできています。そして、陽子の数によって、すべての元素に番号をつけています。宇宙は、ビッグ・バン(大爆発)によってできたと言われますが、そのビッグ・バンの光の中からは水素が生まれました。この水素は、電子を持たない水素の原子核でした。これが、すべての原子の陽子となります。ですから、すべての物質は水素によってできていると言えます。水素の次にできたのがヘリウムでした。そのために、この宇宙で最も多いのが水素で、次がヘリウムです。そしてすべての元素は、この2つがかかわってできています。

我々の性ホルモンも、この水素によってできています。これは物質としてのホルモンの働きと同時に、エーテル(霊)としての働きも持っています。これが性エネルギーです。これは、肉体という物質には属しません。この性エネルギーが唯一、我々に生命を与えるエネルギー、純粋な創造エネルギーです。すべてに生



命を与える太陽に属するエネルギーです。我々は、自分を生かしているこの性エネルギーについて、なにも知りません。この性の真実を知らずに、進化を実現することはできません。ブッダもキリストも、弘法大師もベートーベンも性の真実を、我が身をもって生きました。人類の歴史の中で隠され続けてきたこの性の秘密は、秘教的な奥義に通じた、本当に限られた人によってのみ伝えられ保存されてきました。しかし、1962年2月4日、水がめ座の光の時代の始まりによって、すべての秘密は人類に公開されることになりました。宇宙の創造のプログラムが、その時を迎えています。

性の秘密に入る前に、水素とヘリウムについて、小けておきたいと思います。

水素とヘリウム

水素はHで表わしますが、これは^{ハイドロゲン}Hydrogenの略で、ギリシャ語で水を生ずるものという意味です。水素は、かしぎに思うかもしれませんが、鉄や銀、金と同様の金属の元素です。自然界には3種類の水素があります。これが水素の3つの同位体です。1つはプロチウム(¹H)で、普通の水の中の水素は、ほとんどこれです。2番目がジウテリウム(²H)で、D(deuterium)で表わします。これは重い水素、重水素で、水の中にはほんの少ししか含まれていません。この重水素を含む水は重水と呼ばれ、死んだ水と言われていました。3番目がトリシウム、またはトリチウム(³H)で、T(tritium)で表わし、非常に重い三重水素です。これは、地球の表面にはほんの少しあります。このトリチウムを含んだ水は、放射能をおび大変危険です。このような水は、原子炉などで、人工的に作られる水です。これらの3つの水素によってできる水は、軽い水と重い水であり、物理的な性質が違ってきます。

ヘリウムはHeで表わし、ギリシャ語のhelios(太陽)に由来します。これは最も軽い気体の元素で、他の元素とは化合しません。

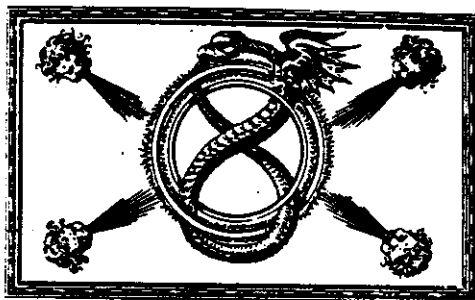
これらのことも参考にして、本当の性とはなにかを考えてみてください。

2. 真の性とその神秘

宇宙のすべてのものは、2つのエネルギーの交差によって生まれました。それが陰(-)と陽(+), 火と水のエネルギーの交差です。それは十字形で表わされます。宇宙のすべてに二元性を与えています。そして、この2つのエネルギーを中和させる力、エネルギーによって創造が成されます。これが、4号でも説明した三位一体です。これが、すべての生命を生かしている純粋な、中性の性エネルギーです。水晶のように純粋なエネルギー、それをクリスティックなエネルギーと言います。水晶のことをクリスタルと言いますね。このクリスティックなエネルギーが全宇宙に存在している生命のエネルギーであり、コスミック・クリスト、またはコスミック・キリストです。ですから、キリストは1人の人物を言うのではなく、全宇宙に常に存在している純粋なエネルギーを意味しています。

キリスト教のイエス、仏教の釈迦は、このクリスティックなエネルギーを我が物とし、肉体のすべてをこの純粋なエネルギーに変えました。それによって、死を越え復活しました。だからこそ、イエス・キリストであり、ブッダ（光輝く人）なのです。‘キリストの名において’ と言えば、それは、‘ブッダの名において’ と言っているのであり、宇宙のすべてのエネルギーの起源を意味しています。我々の魂の光を、分厚いエゴのエネルギーが黒雲のようにおおっています。大変強力なエネルギーを持っているエゴですが、そのエゴを排除した分ずつ、クリスティックなエネルギーが入って来ます。

我々は、本当のエネルギーの操作の仕方、使い方を全く知りません。自分がどんなエネルギーを持っているか、なにも知りません。それが、今あるすべての問題の根源です。中性なエネルギーは、^平にも^平にも向けることができます。正しい知識によって十に生かすことを知る必要があります。中



宙の中で、また1人1人の人間にとって、最大のエネルギーはこの性エネルギーです。自分の内にあって、自分の生命であるとも言える性エネルギーを理解することなく、自分自身を理解することはできません。ノーシスは、本当の生命とはなにか、その生命エネルギーはいかに使うものなのかを教えます。そして、神の大いなる作業である創造の三位一体とはなにかを教えるものです。人間は、進化のためにすべてを与えられています。

性という、皆さんはなにを連想しますか？この禿廃した世の中に生まれ育った我々が、性とは完全に神聖な創造主の偉大な作業であると考えるのは、なかなか難しいのではないかと思います。けれども、性は、本当は真に神聖なものです。それは、まさに、我々自身が光そのものへ、かえって行くような行いなのです。我々は、なぜ、結婚のときに結婚式という儀式を行うのだと思いますか。今、日本で行われている結婚の儀式は、全く禿廃の極みのようなものです。でも、本来は、魂の底からの願いをこめた神聖な儀式でした。以前、儀式も魂の栄養の1つだと書きました。皆さんは、なんのことかと思われたかもしれませんが、儀式というものは、人間と高次と交信させる場です。我々の魂や意識が、神々に至る高次から、直接メッセージを受けるためのものです。ですから世界中の儀式は、その中に魂へのメッセージを秘めています。でも、我々人類は禿廃の歴史の中でそのメッセージの意味も忘れ去り、儀式をも冒瀆し、今に至っています。性は、単なる肉体的な男女の交わりのことと言うものではありません。

性の3つの段階

性には創造的性（スーパーセクシュアリティ）、生殖のための性（ノーマルセクシュアリティ）、禿廃的性（インフラセクシュアリティ）の3つの段階があり

ます。まず、生殖のための性については、あまり説明はいらないでしょう。だれでも知っている、子どもをつくるための性です。でも、我々はこの生殖的な行為によって、なにが起こっているのかを知りません。1人の人間が生まれるためには、1つの卵子と1つの精子があれば充分です。1つの精子は1人の人間の生命を生み出すほどのエネルギー、光の原子です。しかし、子ども1人のために数億の光の原子を失い捨てています。そして、独身者でも、マスターベーション（自慰行為）を行えば、同様のことが起こります。そして、性エネルギーを失ったかわりに冷たい空気が入り、それは脳に至ります。そして、脳の中で細かい気泡となり脳細胞を犯します。男性は性エネルギーを消費するたびに大変な生命エネルギーを失います。それは決して回復することはできません。あまりに消費してしまえば老化も早まり、脳の働きも衰え、またインポテンツ（陰萎、性交不能症）にもなります。そして男性は、性的な営みの中で95%も性エネルギーを失っています。それは生命の光を失っていることなのです。女性は男性に比べれば、失う性エネルギーはずっと少ないのですが、そのままなにもしなければ性エネルギーは体内に蓄積されます。そして尿とともに排泄されたり、また肥満をまねいたり、体内にそのままたまったりします。体内に残った性エネルギー、つまり性ホルモンを成す水素は体内にたまって、二重水素、三重水素と変化していきます。放射能を持つ三重水素、トリシウムはガンのもととなります。性エネルギーを消費しない男性でも、ただそのままでは同じことが起こります。これが現実です。性の積廃と共にガンも増えています。これが本当に生命の創造と言えるでしょうか。精子と卵子が結合するということは、物質の次元のことです。それだけでは生命は生まれません。そこに魂が宿って初めて、生命として生まれることができるのです。それは創造主である神のみができることです。魂は神の一部なので、**積廃的性**、これも説明するまでもない程です。売買春、同性愛、性的暴力、殺人、そして人肉を食べる事件さえ起きました。我々の感覚というものは慣れてしまうということ、そして慣れてしまえばさらに強い刺激を求めます。我々の周囲はどこを見ても性的な刺激であかれています。テレビも映画も子どものマンガも、街中の広告、流行歌など、すべて性を商品にし、次々とどぎつく積廃の度を強めるばかりです。それらを目にするたびに、その刺激は脳下垂体へ伝わり、即、脳下垂体から性腺に伝わり、一瞬のうちに性ホルモンは分泌されてしまっています。それがそのままであれば、我々の体内の性ホルモンは分泌され続け、体内にたまり続けます。そうすると、それは物理的に出口を求めます。それが、性的な多くの問題を生み出します。そして我々は、どんどん消費し生命力を失い、退化へ積廃へと落ちて行きます。我々の転生にも大変大きな問題を投げかけます。尾髄骨から先にも骨があったり、睾丸がいつまでも下がってこなかったり、無精子であったり、それらは、前世ですでに性エネルギーを大変消費していたと言えます。原因と結果の法則によって、我々の今の人生の在り方が転生の次の人生を創って

いるのですから、今は、あまりにもひどい状態です。これからを生きる子どもたちのことを考えてみてください。育つ前に、肉体も心理も歪められ弱められ、生命力を奪われ、正しいことを知らされもせず、声なき悲鳴をあげています。子どもたちは自分になにが起きているのか、自分でどうしたらよいのかも知らずに、この頹廃した社会の中で汚され続けています。社会も学校も家庭も正しいことは教えてくれません。子ども110番などの、子どもたちのための電話相談がありますが、母親や父親から性的に犯され続けている子どもたちの訴えが、あまりにも多く寄せられています。そして犯されているという自覚もなく性的に遊び続ける子どもたち、マスターベーションに対しては全く悪くない、したい時はしてもいいとさえ答える相談員、これが子どもたちと、大人という我々の現実の姿です。

創造的な性

創造的な性、それは我々の生命を失うことのない性です。それ以上に、我々の生命を本当の意味で再生していくものです。それは、我々の限りある生命を、限りない生命、永遠の生命へ到達させるものです。創造的な性は、決して性エネルギーを失うことなく、2つのエネルギーを結合させ昇華させる性です。それが太陽と月の、火と水の、陽と陰の、そして男と女の神聖で完全な結合です。それが性エネルギーを、本当の意味で生かすことのできる完全なる結婚です。性エネルギーを決して消費せずに、しかも昇華させる時、我々の体内でどんなことが起こるのでしょうか。まず、昇華することは、血液中に分泌され性腺で働く性ホルモンを、再び血液中に吸収することです。これがホルモンのフィードバック、再吸収です。この具体的な昇華方法は最後に説明します。性ホルモンを再吸収する作業の中で、性ホルモンである水素が変化していきます。それは、体内にたまった性ホルモンの水素が、有害な重いものに変化していくのとは全く逆の変化です。これが我々の生命の水である性ホルモンを、軽いものと重いもの、上と下にわけることです。創造の7の法則、オクターブの法則によって、水素が1オクターブ上の水素に変化します。それによって、水素はヘリウムに変換されます。これが原子転換と言われるものです。ヘリウムは太陽のエネルギ



一であり、それ故に性エネルギー昇華によって、魂を太陽エネルギーで包むことができます。これが我々に永遠の生命を与える黄金の霊体、太陽体です。この変換が成されるためには、非常な高温高圧がなければできません。宇宙のビッグバン（大爆発）の時、初めてできた水素が、その高温高圧の中でヘリウムに変換したように、そして太陽が、その熱で水素をヘリウムに変換しているようにです。でも皆さんは、我々の肉体の体温では不可能だと思いかもしれません。でも、我々の体内で起こる水素の変換は、物質的な肉体の熱で行われるのではありません。我々の霊的な熱、その磁気によって成されるものです。そして、物質としての性ホルモンだけではなく、性ホルモンの霊的なエネルギーをも一段階高いものに洗練し、高めているのです。それは性ホルモンの霊的なエネルギー、水素の霊を使って成されます。このように、1組の男女であれ、独身者であれ、性ホルモンの再吸収、昇華によって自分の肉体という物質も、また霊的に心理をも清らかに、太陽の光へと高めて行くことができます。そのようにして、身も心も黄金の光に変えることにより、イエスも釈迦も、エジプトのファラオ（王）たちも、永遠の存在として復活することができました。

性の神秘は、人間が完全なる人に、そして永遠に結ばれる道の門であり扉です。このような神聖なエネルギーの操作、変換は人間にのみ与えられています。前にも肉体は創造の部屋であり、肉体を持っていることの重要性を書きましたが、この性の真実を知ることによって、さらにその奥みを実感できると思います。自殺や殺人はもちろん、最近のあまりにも多い、安易すぎる子殺しは、なにも知らないから、見えないからできるのだと思います。大事なことは、我々がただ生殖的な性しか持てないのではなく、このようなエネルギーとその働き、力を持っていることを知り自覚することです。我々には、今、霊を救う最後のチャンスとして、すべての秘密が、教智が明かされています。

性エネルギー昇華とその効果

我々は肉体上の両親、つまりこの世の実際の両親と、魂の両親を持っています。魂の両親が、宇宙の創造主である父と母です。その宇宙の偉大な両親は、我々の内にも存在しています。ハートには内なる父、仙骨には内なる母、そして性感には、子としての中性の性エネルギーである精霊。この3つの存在が1つに結ばれなければ、創造はできません。性エネルギー（子）が仙骨（母）に、そして仙骨（母）から2本のエネルギーの通路を上昇して脳へ至ります。この2本の通路が、ヨガで言うイダ（女性ホルモン、月）とピンガラ（男性ホルモン、太陽）です。（2号8ページ参照）。33本の脊柱の両側を、2匹の蛇がからまり合うようにして上昇します。このらせんの形は我々の遺伝子、DNAの形



と同じで、このらせん(∞)が無限を表わします。なぜなら、永遠の生命を創造していくエネルギーの動きを表わす形だからです。脳に至った性エネルギーは、ハート(父)まで至らせます。これによって性エネルギー昇華が成されます。それによって、我々の性と脳とハートを調和させることができ、高い知性と真の愛、純粋な愛を呼び起こします。この創造の作業によって、我々の肉体はもちろん、内的な体、アストラル体も強くしていくことができます。イエスの言葉に「永遠の霊は形なき者。これは父なる神、母なる神、子なる神が1つとなったのだ。現われた生命にあっては、一位が三位となった。父なる神は力の神、母なる神は全智の神、子なる神は愛である。父なる神は天地の力、母なる神は聖気で天地の思想であり、子なる神はひとり子でキリストであり、キリストは愛である。私はこの愛を現わすために人として来た。」というのがあります。イエスは、創造の三位一体を実現する愛の力、純粋な性の神秘、キリストの真実を示すために来ました。そして、私はすべての感情と肉欲に勝った、私は自分の生命を捨て、そしてこれを取りもどそう、私は生命のすべて、死のすべて、死人の復活の意味を示そう、私が成すことはだれでも成すことができる、と言っています。我々人間が、自分の内に創造の三位一体を成せる存在であること、創造主のたいなる作業のできる存在であることを教えています。そして、我身を人類のためにささげるという純粋な愛、献身を教えています。

性エネルギー昇華による効果と注意点を、ごく簡潔にまとめてみます。

- 性ホルモンの再吸収によって血液のポンプ力を増加させ、血液の循環を良くします。性エネルギーは圧力ポンプのような力、上昇させる力を持っているので、それによって血液のポンプ力が強まります。血圧が上がるのではありません。
- ポンプ力が増すことにより脳へ送られる酸素が増え、脳の活動を活発にします。
- 血液中の酸素の量が増え、血液の浄化、全身の新陳代謝を良くし健康にします。
- 我々の骨を強くしていくことができます。
- 超常機能、超常感覚を開発していくのに役立ちます。
- 昇華された性エネルギーによって、エゴ絶滅と心理的汚染の浄化を実現させていけます。エゴより強い唯一のエネルギーは、昇華された性エネルギーです。これをエゴをなくし、心理を清めるために使わなければ、エゴがそれを使ってしまい、ますますエゴを増大させてしまいます。性と心理はノーシスの教える進化のために欠くことのできない作業です。人という字が2本の線が支え合っていてできているように、性と心理のどちらが欠けても我々は失敗します。車の両輪のように、2つのことが行われて初めて、進化のための本当の仕事をしていくことができます。
- 性エネルギー昇華は7才から始められます。そして、女性が18才、男性が21才までは、夫婦として昇華できるほど、性ホルモンが成熟していません。
- 性的行為の相手を変えると(浮気など)、いつもの相手の磁気エネルギーと異

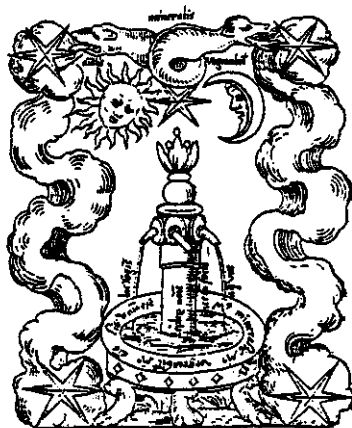
なるため、脊柱の両側の上昇通路がショートを起こし、上昇できなくなります。このように、最も強力な性エネルギーを、^マ一に使うのではなく^マ十に向け、精神的な進化とエゴ根絶のために方向づけることが大変重要になってきます。

3. 性の秘密を伝える象徴

今まで説明してきた性の神秘は、世界中のあらゆる文明、すべての宗教の中に見られます。日本の古神道、修験道、密教、中世ヨーロッパの錬金術、中国の神仙思想、そしてエジプトや中南米のマヤ、アステカなどの古代文明、一つ一つあげれば、歴史のすべてに見出すことができます。小だん、無意味な単なる音からの習慣と知っているものが、実は大変深い叡智を象徴しています。一つの神話、一つの音楽の曲、一つの彫刻、一つの建物、そして一つの宗教儀式や伝統行事が伝えようとしていることを理解する時、我々は閉ざされていた扉を開き、内に入ることができます。

性に関する象徴を、少しあげてみたいと思います。まず数についてです。3は三位一体(△)であり創造の法則。4は生命と生命の4つの要素(火、水、土、空気、また炭素、水素、窒素、酸素)を表わし、□(四角)や十(十字)、^マを^マ表わします。5は小宇宙、人間、カのシンボルであり、ペンタグラム☆です。6は性。それは上向きと下向きと重なり合ったヘキサグラム☆です。これは火と水の結びつきであり、硫黄と水銀の結びつきです。錬金術でも塩、硫黄、水銀が基本的な物質です。塩は肉体、固体を、硫黄は火と血、そして光を表わし気体を象徴します。水銀は性エネルギーを表わし、液体を象徴します。水銀は^マMercuryで、これはローマ神話の神の使者メルクリウスにちなんでつけられています。これはギリシャ神話のヘルメスであり、エジプトのトートです。ヘルメスもトートも知識、叡智の神です。神の使者の杖は1本のオリーブの木に2匹の蛇がからまり合い、木の頂きの翼に向かっています。7は3+4であり、生命の上に三位一体が成されています。被創造物の秩序の法則であり、勝利を表わします。8は無限と正義、肉体と魂の結合を表わします。9が完全なる人間、三位一体を3度成すことです。15は悪魔、肉欲、般若です。そして1+5で6につながります。ここで七五三を思い出してください。これも性に関連を持ちます。神社や神棚、また

錬金術師のメルクリウスの泉



新年の時に門口に張る注連縄(標縄)は七五三縄とも書きます。また、地名にも七五三^マ縄というのがあります。注連縄は、捻り合わせた縄に3、5、7本とわらをひねりたら



注連縄

合を表わします。9が完全なる人間、三位一体を3度成すことです。15は悪魔、肉欲、般若です。そして1+5で6につながります。ここで七五三を思い出してください。これも性に関連を持ちます。神社や神棚、また

し、たらしめたわらの間に紙垂（紙幣）を下げます。この注連縄は、性エネルギーと性エネルギーの結合を表わします。ですから七五三の行事は、人間の完全な性と関連するものです。神主さんの鳥帽子は上昇させた性エネルギーを表わし、エジプトのファラオ（王）や七福神の福祿寿の長い頭と同じです。御神酒も性エネルギーを表わします。そして鳥居の2本の柱は、男と女、陰と陽の2つのエネルギーを象徴しています。ジャキンとポアスと言われている柱、寺院の入口にある柱と同じです。一般的に神社では6月、12月の晦日に大赦をします。この時、神社の前に茅で作った大きな輪をおき、ここをくぐるという神事を行います。この輪を茅の輪と言ひ、それは女性性器の象徴であるとか、蛇であるとか言われています。そして昔は、この輪は両端がとがった形をしていたそうです。そしてここをくぐりぬけることで邪気を祓うということは、蛇によって象徴される性的な誘惑に勝って、不死の道へ入ることができるということかもしれません。そして鳥居については、この茅の輪の形が固定したもので、初めは扉つきの入口の形をした鳥居だったという説があります。この2つのエネルギーを象徴する2本の柱の間の扉を開いて中に入る、これは神聖な完全な性の道へ入って行くこと、イエスの言葉で説明したような、創造の起源、キリストの秘密に至る道の扉を開くことではないでしょうか。また、鳥居は何段もくぐることで、俗界から神聖界へ清められて入るためのものだとか、俗界と聖域の境界を表わすとか言われていますが、これは人間が、神々の性とされている、この2つのエネルギーの神聖な結合によって高次への階段を登り始めること、進化の過程で通りすぎる段階を思わせます。

日本の国生みの神話はとても象徴的で神秘的です。国生みとは、魂ある生命を生む性に関するものです。古代の日本人には、性は神に結びつき神に習うものだと考えられていました。ですから、神習う行為の性は、神聖で清らかな明るいものであり、悪とか卑しいものだと考えることが悪でした。ですから、神の前で完全な結婚の決意と願いをこめて結婚式を行ったのでしょう。結婚式の時の三三九度の行為は、三位一体を三度成し、9で表わす完全な人間に至ることを意味します。そして、その杯は男女交互に交わされます。またこのお酒を入れる瓶子には、雌雄1対の蝶がついています。蝶は解放された霊の象徴です。性の結合によって2人の霊を完全な自由に、完成されたものへ導くことができます。また、指輪交換ですが、これはギリシャ・ローマ時代にはお互いの指をリボンで結び合っていました。このリボンは、陰陽石、たとえば伊勢の夫婦岩にかけられている注連縄と同じです。男女の性器を象徴する陰陽石に注連縄をかけたり、そこを歩き采するお疲りは、この性の真実を象徴的に表わしています。

性に関する象徴には、蛇（性エネルギー、性的誘惑、聖なる母—観音・マリア・イシス・ワンダリーニ）、魚（生命の水=性エネルギー、水銀、今だ永遠に至らないもの）、矢（ポジティブ（+）な性エネルギー）、弓（エネルギーを放つ、

性エネルギー)、猿(肉欲)、鏡(壺)、龍(昇華された性エネルギーの火、聖なる父)、杯(聖杯、永遠なる女性要素、女性性器、叡智)ほかにも関連を持つものがたくさんあります。世界中に見られる蛇信仰、蛇や龍に関する伝説もそうです。

● 脚から出てくるヨナ。一四世紀ラテン語聖書より。パリ、国立図書館蔵



また、世界中の性器信仰、男根や女陰も神聖な性を象徴しています。魚も日本だけでなく、ヘブライやギリシャなど、多くの文明、宗教の中で見られます。十日えびす(大阪、今宮神社)には、同じ大きさの2匹の鯛を1対にして、笹の枝にぶらさげて奉納します。魚は生命の水、性エネルギーです。そして、竹は力を象徴します。ですからこれも、2つの性エネルギーの結合とその神聖な力を表現しています。お城に見られるしゃちほこ。これは尾を上にあげ、生命の水である性エネルギーの上昇を伝えています。そして金のしゃちほこと言う時、この金は、昇華された性エネルギー

によって創る黄金の太陽体を象徴します。このように、象徴の持つ意味、正しい知識の鍵によって、周囲にある物や事柄を自分で解釈し、古代から伝えられてきたメッセージを理解していくことができます。

以前、私の郷里にある羽黒山について書きましたが、もう一度小けてみます。この山は、出羽三山(月山、湯殿山、羽黒山)という信仰の山です。この羽黒山を登る道は、まず初めに大変大きな鳥居をくぐります。そして大きな杉並木の中を、頂上に至るまでずっと石段が続きます。これが「不死身の御坂」、2446段の参道の石段です。 $2+4+4+6=16$ です。ルーン文字の16は、復活、新しい生命の意味を持っています。初めに石段を少し下ると葭川を渡ります。ここには滝があって、頂上に登る前に衣の汚れ、身の汚れを落とします。ここに七五三掛の老梅の木があります。そして葭川に着く前に6つの社を通ります。6で示される性の秘密と、葭川での葭で表わされる心理の浄化、これによって神の住む山へ登れることに気がつきます。川を渡って行くと国宝の五重の塔があります。三重や五重の塔も、その数で象徴される意味を表わしています。さらに登って行くと火石があります。この火石のほかに、場所は離れていますが水石というのがあります。2つの石は出羽の二つ石と言い、陰陽の二気を発すると言われます。火石は万物の陽炎を発し、水石はその中から清水が湧き出し、この流れによって万物を生かし絶えることがなく、この流れの末は玉河と言われるそうです。これは「水」の神聖な結合です。性の火が生命の水によって清められ魂の大河に至ることを思わせます。はるかな古代から、ここに2つの石は存在していました。また延々と続く



羽黒山五重塔

石段には、ひょうたん、徳利、杯が刻まれています。これを6つ、見つけると願いが叶うと言われてます。6は性、ひょうたんはエネルギーを集中する形、徳利は花びんと同じく聖杯と同じです。聖杯は前に書いたとおりです。この石段を登る途中には、多くの遙拝所があります。その1つ目は湯殿山を、2つ目は鳥海山を遙拝する所です。この鳥海山は、月山に対して白山と言った時代があるそうです。この鳥海山の近くでは、比山香樂、白山香樂が行われます。これは“への穴から比山を見た者でなければ覚えられない”と言われてます。この香樂の影響を受けた神代神樂も行われています。羽黒山の頂上には、八乙女浜の遙拝所があります。この八乙女浜へは、日本海の江の島と言われる白山島から船で行きます。羽黒山を開いたと言われる辯手皇子が着いたこの浜には、洞窟の中には玉依姫がいて、外では8人の乙女が舞っていたと言われてます。この洞窟は、羽黒山頂の鏡池とつながっていると伝えが有ります。この山頂の池は龍神池、御手洗池とも言われます。これは弁天池であり多くの古鏡が発見されています。

このような聖なる地には、上にも下にも水があります。高野山もそうです。この鏡池から、蒙古襲来、元寇の役の際に、九頭の龍が飛んで神風を起したと言われてます。それによって鎌倉幕府が大瓦鐙を奉納したと言われてます。山頂にこの鐙があります。ここで玉依姫のいる洞窟とは、天照大神が隠れた天の岩戸と同じものと思われます。この洞窟が我々の仙骨です。そこにいる内なる母、観音でありマリアであるクンダリーニは、天照大神と同じ存在です。そして仙骨から33本の背骨を通して至上の聖なる父に至ることができるよう、この八乙女浜の洞窟も神の山である羽黒山頂の池まで通じています。ここでは山そのものが信仰の対象であり、羽黒山は聖観世音菩薩であるとも言われます。そしてこの観音は、フダラクという所において八大龍王が守護しているといひます。フダラクは梵語で、観音の住む浄土を指します。5号9ページに、羽黒神をのせましたが、この弁天像は窓付きのさや、桃とか梅の実の形をしたさやにおおわれています。これは桃の実の方が正しいのではないかと思います。桃の実は、中国の道教の中で不老不死にするものとして出てきます。この羽黒神は、3回半とぐろを巻いていますが、この35は7の半分です。創造のオクターブの7は35という2つが合わさっている。つまり、2つのエネルギー、性の完全な結合によって不老不死の永遠に至るということです。また33という数は、我々の背骨の数であり、三十三観音とか、三十

三間堂などにも使われている深い意味を持つ数です。すべての文明、宗教は、神秘的な秘教的な儀式、秘事秘法の伝授などの秘儀を持っています。33は、この秘儀に参入する儀式、イニシエーションの最高段階、興儀皆伝を表わします。フリーメーソンという秘密結社でも一番上の段階は33。キリストも33才で処刑されました。3と3を向かい合わせた形は8になります。これらは、こじつけのように思うかもしれませんが、そうではありません。イエスの12使徒の1人、ペテロは、神にあるキリストの中に深く隠された生活を送れ、と言っています。深く隠された生活……それが、八乙女浜の洞窟から山頂の池に至る隠された道であり、祓川で汚れを清め、1段ずつ上昇し神の住む頂に至る道。そして火石と水石によって象徴される玉河に至る道です。我々の性腺の中にある、宇宙最大の純粋なエネルギーが、洞窟のような仙骨の中のクンダリーニ（聖なる母）を目覚めさせ、33の階段（背骨）を登らせ、魂の宿る玉河（聖なる父）までたどりつく。それによって、我が身の内に三位一体を成すことができます。これが今まで隠され続けてきた性の真実です。この大なる作業なくして、だれ1人として進化をとげることはできません。そして、ヘソの穴で象徴される宇宙の子宮、宇宙の黄金の卵の宿る胎内から外を見て、その時初めて神々の真実、神々の性と創造の真実を理解できるのだと思います。羽黒山は入口の赤い鳥居をくぐり、山頂近くでもう1つ鳥居をくぐります。この鳥居は、昔、黒い色だったそうです。黒は神秘で無を表わします。黒い鳥居をくぐる、それが奇跡と神秘に至ることを象徴しています。黒い仏像も同様です。湯殿山には、太陽の分身とも言われる神体岩があります。標高1100mの所で、赤い岩肌の巨岩が、真冬の豪雪の中でも湯をかき出し、湯煙を立てています。この赤い巨岩は陽根、男根を象徴しています。前に、川崎の登山神社について書きましたが、この神社のお祭りの葎束の1つに、頭上に赤い男根をのせたものがあります。赤は愛であり火です。上昇し、昇華された性エネルギーを、そのような神聖な行いを、難しい言葉1つ使わずに、この姿が表わしています。この湯殿山権現の御神託に、“一切の衆生、世の理を捨て、日に月を空ねて身を清め心を清くし……”というのがあります。我欲を捨て、我を鏡に写し、月のエネルギー（母）を日のもと、太陽（父）へと昇らせ、我のすべてを清めることを教えています。これが進化への道です。

ノーシスは1つの宗教でもなく、あれこれの宗教の寄せ集めでもありません。ノーシスは完全な科学、完全な宗教、完全な叡智です。本当の科学とは、宇宙のすべての次元を解き明かすものです。完全な宗教も全く同様です。すべての次元を理解するには、そのすべてを生み出した起源を知る必要があります。宗教(re-ligion)という言葉は、もとにもどる、起源に帰るという意味を持つrelegateと関連します。ですから、真の宗教はすべての次元を生み出す源へもどることです。そこには偶像、お金、品物など、1つの物も入り込むことはありません。自分自身の意識ある努力、その意志が必要なだけです。科学と宗教は反対のものではなく、

本当に1つのものです。我々は科学も宗教も理解していないのに、先入観、偏見で判断していると言えます。

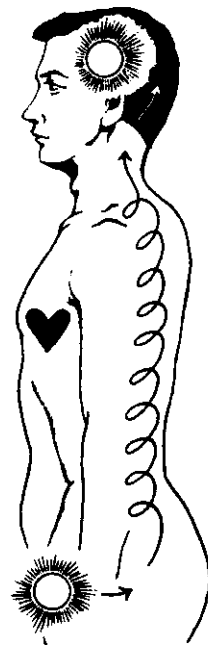
4. 性エネルギー昇華法

始める前に

- まず、すべての邪気を払うために、ハッハッハッと体内の空気と共に、意識を持って邪気を全部吐き出す。
- 呼吸は、常に太陽エネルギーを全身に吸収するつもりで、できるだけゆっくり深く行う。
- 女性の生理中とその後4日くらいは、人体の浄化中なので行わない。排泄すべきエネルギーを外へ出す期間だからである。ほかのマントラ実技も同様です。
- 自分の進化を助けるために超常感覚を開発するとか、自分のエゴ根絶のためとか、正しい考え、まじめな心で行う。
- 1つのエゴ、たとえば肉欲、怒り、また怠惰と、1つに一定期間集中して行い、そのエゴ根絶のために昇華したエネルギーを使う。これは、日中に自己を観察し続ける心理的な行いと平行して行う必要がある。
- 常に背筋をまっすぐ伸ばして、エネルギーの流通を助ける。
- 意識を深く集中させ、機械的にくり返すことはさける。
- 呼吸、マントラ（真言）、想像（イメージを描く）が大事である。
- マントラは、母音を長く伸ばすようにして発音する。例、インはイ~~~~ンと。
- イメージ、想像は、ありありと思い浮かぶように、練習、努力していく。
- 食後2時間くらい避ける。

★超常感覚の目覚め、開光のための昇華法

畳の上で、蓮華座（仏像の座り方のようなあくら）か、普通のおくら、正座、またイスに腰かけてでも良い。目をとじ雑念を払う。仙骨の所に光を想像する。純白の光輝く泉でも良い。この光が性エネルギーだ。深く息を吸いながら、この光が脊柱にそって、香の煙が立ち登るように頭まで上昇させることを想像する。初め、難しい時は、白い光の玉が仙骨からスーッと、背骨を登っていく様子とか、とにかく想像しやすいものを自分で考え工夫して行う。慣れたら、光の筋を、さらに2本の光が上昇していくように、できるだけありありと思い描いて行う。頭に光が届いたら、ちょっと息を止め、頭のすみすみまで光輝くように想像する。ここまでは、どのマントラを発音する時も同じようくり返す。ここまです①とします。



感 覚	位 置	マ ント ラ	
超 視 覚	眉間	イー (IIINN)	意識に共振
超 聴 覚	甲状腺(のど)	エー (EEENN)	内部聴覚のめざめ
直 視 力	ハート(心臓)	オー (OOENN)	性、脳、心をつなぐ
テレパシー	おへそのまわり(太陽神経叢)	ウー (UUENN)	消化器の健康、治療にもなる
記 憶 力	肺	アー (AAENN)	肺の血液循環を良くする
全身に光を送る	性腺、脊柱、頭	ムー (MMM SSS)	性エネルギーを活動

その次は、まず眉間に意識を集中させる。イーとマントラを発音する。発音しながら、眉間の所に光があるように想像し、その光を感じるようにする。その光が渦を巻く様を思い浮かべる。それから、最初に説明したように①を、深く息を吸いつつ仙骨から頭まで、光を上昇させることを想像する。次にのどに意識を集中し、エーと発音する。エーととなえながら、紫色の光がのどにあることを想像する。その紫の光の渦を思い浮かべる。慣れるまでは、光を感じるだけで良いし、少しずつその光を紫色にしたり、回転させたりしていけば良い。そしてまた①をくり返し、頭まで光を至らせることを想像する。次に心臓に意識を集中し、オーととなえながら、赤い光の渦を思い描く。心臓の所に光を感じるとか、赤いバラを想像するなど、やりやすいように始めれば良い。再び①をくり返す。頭に至った光をおへそのまわりに、体の前面を通して送ることを想像する。おへその所に届いた光を、ウーと発音しながら回転させる。となえながら、おへその所の光が、さらに光輝く様、光を増す様を思い浮かべても良い。自分で工夫すること。また①をやって、頭の光を、頭から体の後側を通し肺の所まで送ることを想像する。アーととなえながら肺の所に光を感じる。(3号10ページ四参照)。今度は、深く息を吸い、性器に意識を集中する。口を吐いてムー(ム)と発音しながら、性器の所で性エネルギーの光が活動している様、光が湧き出るような様を想像する。次にS(ス)。これは歯をかみ合わせたようにして息をスーと吐き出す音、それを発音する。発音しながら仙骨から光が上昇し、全身に光がゆき渡ることを思い描く。黄金のコブラが上昇する様を想像するのも良い。最後に、頭まで光が届いた時、全身が光で包まれているように想像する。ここまですべてを1サイクル、1回として、1日15~30分の間行う。機械的にならないよう、イー・イー・イー・エー・エー・エーと3回ずつとか、発音する順番を変えるとか、工夫して行う。雑念が入り込まないように、やっていることに



意識を集中させて行う。

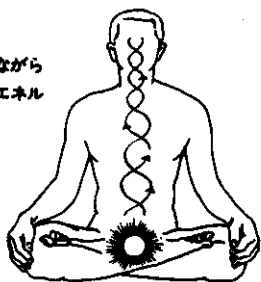
★アストラル体へ性エネルギーを向ける KAN DIL BAN DIL RRRR……

立っても座ってもどちらでも背中を伸ばして行う。1日15分。性器に意識を集中し、深く息を吸う。息を吐きながら、カン（高い声で）・ディル（低い声で）ととなえる。また深く息を吸って、前と同じにバン（高）・ディル（低）ととなえる。次に深く息を吸って、Rの巻き舌、ルルル……をととなえる。となえながら、性器から仙骨、脊柱、頭と性エネルギーの光が上昇し、頭頂に至った光が、シャワーのように降りそそぎ、全身を黄金の光でつつむことを想像する。この巻き舌は、舌の刀をぬいて、舌の先を上前歯の後側のあたりに持っていく。舌、口、あご、首、肩の刀をぬいて、思いきり空気を吐き出すと良い。ちょうど、舌が風にあおられなびくように、細かく振動する。モーターのような音である。とても重要なので練習することが望ましい。



★性エネルギーを昇華させ、創造的な力にする HAM SAH

ハムと考えながら
息を吸う。エネル
ギーは上昇
させる



呼吸を止め顔を
光で満たし、サ
ッと吸える。エ
ネルギーは
ハートにお
ろす



これはインドのヨガの修業者が、かつう秘密として行っているマントラである。まず蓮華座、あぐら、正座などで行う。雑念を払い、前立腺、卵巣に意識を集中する。できるだけゆっくり、静かに深く息を吸う。吸いながら、声を出さず心の中で、ハームーととなえる。となえながら、これまでの方法と同様に、仙骨から頭まで、性エネルギーが上昇するのを想像する。難しければ、白い光が背骨を登っていくのを想像するだけでも良い。慣れるまで幅広い想像力を使って工夫する。頭まで光が届いたところで、2、3秒息をとめ、その間に頭を黄金の光で満たすことを想像する。頭の中全部に光が広がる様でもよいし、電球のように頭全体が光っている様でも良い。次に息を吐くが、これは吸う時とは逆に、速く短かくサッと発音しながら息を吐き出す。この時は、空気だけを吐き出し、すべての光、エネルギーはハートに送るよ

うに想像する。頭からハートに、滝のような光が落ちるのを想像しても良い。そしてすぐ、また心の中でハームーとやり、サッとくり返す。これを3分間くり

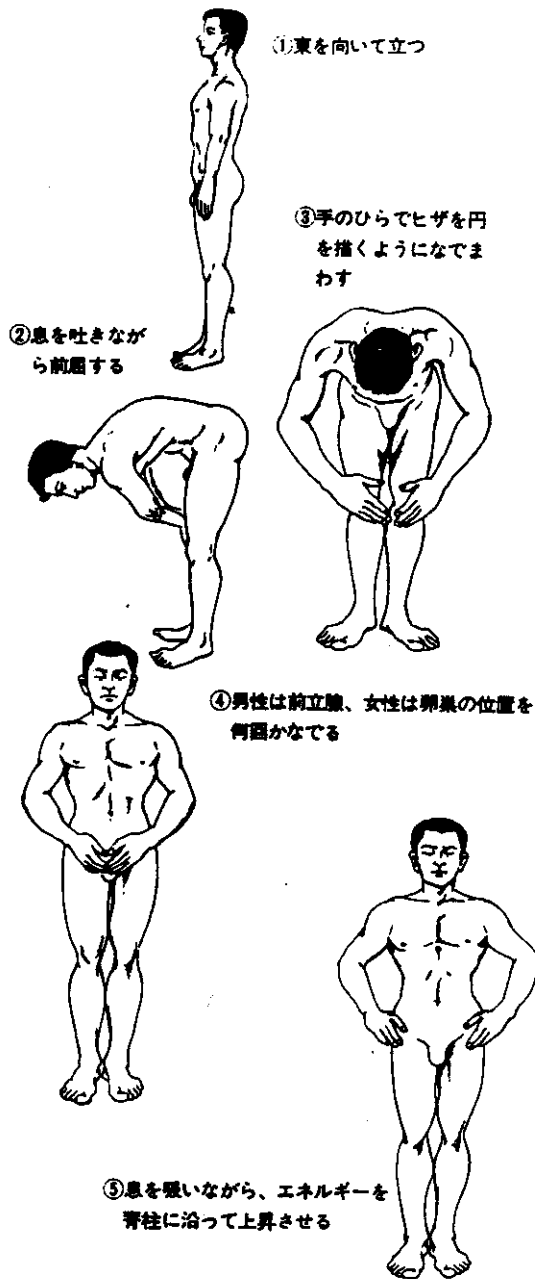
返すが、とても深い呼吸なのでそれ以上は行わない。

☆太陽に祈るチベット式性エネルギー昇華法

東を向いて立つ。夜でも同じ。しかし、へやの関係など臨機応変に行う。地平線から、大きな赤い太陽が昇ってくるのを想像する。息をゆっくり吐きながら、前屈していく。両手はももにそわせて、ひざまで降ろす。ここで息を吐ききる。前屈しつつ、天空の電気エネルギーがひざまで通ってくるのを想像する。体の中を頭からひざまで光がおりにくる様とか、自分なりの想像をしてエネルギーを感じやすいよう工夫する。ここで、体は前屈したまま息をとめ、手のひらでひざをなでまわす。足元から伝わって来た地磁気エネルギーと、天空からのエネルギーが1つに交じり合い、渦を巻いているように想像する。次にまだ息をとめたまま、両手をももにそわせながら体を起こし、両手を前立腺、卵巣まで持ってくる。この時、1つになった天地のエネルギーも、共に上昇することを想像する。天地からの光がひざで1つになり、その光が前立腺、卵巣の所まで届く様を想像する。ここで、前立腺、卵巣の位置を手でなでながら、ひざからのエネルギーと性エネルギーが1つにとけあうように、3つの光が1つの大きな光の渦になるような様を想像する。次に両手を腰

まで持っていき、仙骨まで光が至るのを想像する。ここまで息はとめたままなので、自分の肺活量にあわせて、動作の速さを加減する。次にゆっくり深く息を吸い、吸いながら仙骨のエネルギーのすべてが、脊柱にそって頭、ハートへと上昇する様を想像する。これを1回として、15分間まで同じ動作を何回かくり返す。

どの方法にも共通するエネルギーの上昇は、火山の火が小さくなっていくように、



仙骨から頭へ至らせてもよいし、インドの蛇使いが見せてくれるような、コブラがうねうねと上昇する様でもよいし、仙骨で燃えさかる炎の熱と光が立ち昇るのでもよく、あるいは2本の光の波が伝わっていく様でも、また光の玉が上昇し、頭頂にいる金色のコブラがハートに向かって火や光を吐き出している様でもよい。要は、自分が意識を集中して、できるだけ鮮明なイメージ、想像を思い描いて行えるように、形にとらわれず工夫して行えばよいわけです。

今回説明した昇華法は1人で行う方法です。1日に朝晩、2回、いくつかのマントラ、方法を組み合わせて行います。夏の暑い時や、ホルモン分泌の多い思春期にある人などは、1日3回、行う方がよいと思います。

実践してみれば、心理的にも肉体的にも、とても興味深い体験、実感を体験するでしょう。それによって、さらにヒントを得たりして、行っていけると思っています。

竜が道の端にいて通りすぎる人を見張っている。竜に食われないよう注意せよ。私たちは魂の父のみもとに行くのだが、それには竜の側を通らねばならない。
(エルサレムの聖シリムの詩句)

